# つとめに専心
# 百万軒にをいがけ
## 全教会で陽気ぐらし講座開催
# 決起の集い開催

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66−1311

**笠岡大教会**
**創立110周年**

三年千日スローガン
諭達を実践し、をやの理を戴こう

本年の実践項目
つとめに専心
百万軒にをいがけ
全教会で陽気ぐらし講座開催

## 初代の道を歩み直そう

大教会長様ご挨拶

初代会長・上原さと様は、大阪で商いを営んでおられるときににをいがかかり、是非ともこの道を歩みたいと思われました。

笠岡に帰られてからは、金平糖の御供を種として、おたすけに歩きに歩かれて、そのことによって、大勢の人がたすけられました。

たすかった御恩報じに、共々にたすけ一条の道を歩みたいという人が多く集まり、それならばと、教会名称のお許しを願い出て、初めて教会名称のお許しを頂いたというのが、元一日の姿です。

そう考えてみると、教会名称の元は、願い出たからというだけではなく、おたすけに歩いて歩いて歩いた結果というか、成人の節目だったと考えられます。

ですから、今、百十周年に向かって歩んでいる私達は、ただ記念祭をするというのではなく、名称のお許しを頂くまでの思いに立ち返り、その歩みをお互いがもう一度歩み直して百十周年に向かうことが、今後の道のより大きな広がりに繋がる大切な角目だと思案しなければなりません。

三年千日を仕切って、昨年から成人の歩みを進めています。

昨年は「百万軒にをいがけ」ということでつとめました。

今まで、「百万軒にをいがけ」は、「教祖のひながた」の中の「こかん様の浪速布教」に端を発していると申して、つとめていましたが、実は、一番最初は、「おたすけに歩き切られた初代の道」を歩みたいという思いから、百万軒ということに繋がってきたわけです。

「元々道はなかった。毎日毎日歩いて道が付いた笠岡の道」という言葉を初代が残しています。元々なかった笠岡という名称の道が付くためには、それこそ、毎日毎日おたすけに歩いて、そしてその中に人が集まってきて、名称の道が付いたということです。

この名称が、大きく栄えいくためには、「歩く」、その道筋を歩むことが角目であり、そのことが、それこそ、前真柱様の仰った「教会内容の充実」にも、諭達にお示しくださった「よふぼくの成人」にも繋がってくるのではと思った訳です。

一番最初に「百万軒」ということを思ったときには、諭達はまだ出されていませんでしたが、前真柱様の教会内容の充実ということがずっと心に残っていました。

その中で一番大切なのは、歩んできたその道筋を、後を引き継いで歩くだけではなく、もう一度、初代の思いに立ち返って歩むことです。初代もおたすけを頂いてこの道に歩まれた。親神様・教祖の御恩をしっかりと感じたからこそ、少しでも御恩報じをしたいと歩まれた。

皆さん方の初代を考えてみても、もし、その御恩報じの気持ちがなかったら、今のお互いが在るかどうかと考えると、「在る」とは言いにくいと言わざるを得ません。「二代・三代。結構になったから、もう道を歩まんでいい」というのではなく、むしろ、結構だからこそ、初代に立ち返り御恩報じの思いを思い返して、歩み直しをしなければならない旬を、今、与えられているのではないかと改めて思います。

皆様方にも、もう一度、そのことを思い起こして頂きたい。

教祖によって初代もたすけられた。初代のおたすけによって、皆さん方の初代もたすけられた。「親神様・教祖にたすけられたその道があるからこそ、今日がある」ということ、そして、その御恩報じを、もう一度心にしっかり置いて、改めて百十周年に向かって、しっかりと歩み出したいと思います。

それがまた陽気ぐらしに向かう確かな歩みになると、私は改めて確信している今日です

二年目の今年は、成人の歩みとして、「つとめに専心・百万軒にをいがけ・陽気ぐらし講座開催」と実践項目を掲げてつとめました。今日までに何とか完遂して、皆で共々に喜びを分かち合おう、百十周年に向かって心の交流をしようということで、今日の決起の集いに繋がっています。

先程、祭文の中に完遂の報告をいたしました。「つとめに専心」ということについては、今日はこの後、全員でてをどりまなびをするということで、これも完遂と思案して、祭文に申し上げた次第です。

これは御守護の世界ではなく、皆一人ひとりが、心一つに合わせて「よしやろう」というその気持ちがなかったらできなかった数字なのは確かです。それは皆さん方一人ひとりの一手一つの心の賜だろうと改めて思います。今日は共々にその完遂の喜びを味わって頂きたいと思う次第です。

来年の実践項目を申し上げます。

先ず、一つには、「おさづけの取り次ぎ」。

先程申しましたように、初代も歩いて歩いての道です。これもにをいがけということではなく、金平糖の御供を持っておたすけに歩いた。そう考えると、その完成をするには、にをいがけプラスおさづけのお取り次ぎ・おたすけというものが意味をもってくると思案し、においがけプラスおさづけのお取り次ぎをするということを実践項目として申し上げ、共々につとめたいと思います。

そして、二つ目は、またかと言われるかも知れませんが、「百万軒にをいがけ」。そして、「陽気ぐらし講座の開催」も、また来年もしましょう。

昨年、今年と百万軒にをいがけしましたが、「二年で終わったら申し訳ない、是非とも、また来年もしたい」という声が多々ありました。陽気ぐらし講座も同様の声が多かったので、これもやらしてもらいましょう。

そして、三つ目は、「一万人のおぢばがえり」、これをしたいと思います。

「一万人」のおぢばがえりと言っても、一ぺんに一万人ということではありません。一年間通しておぢばがえりをしようという延べの一万人です。

一人で何回もやって一万人にしようというのではなく、今まで、何年も帰られなかったよふぼくにも、ちょっと切れてしまったよふぼくにも、今年一回だけでいいからとにかくおぢばに帰って頂

こうと、そういう働きをして、「一万人よふぼく」と言われる笠岡よふぼく総数に少しでも近づけたい、私はそういう思いです。

笠岡の基本は歩くことです。私は断言したい。これを失うたら笠岡の道はない。

百十周年に向かってこの三つの実践項目をするために、歩いて歩いて歩いていくんだと、改めて、その思いをしっかりお互いに強くして、今日は、今年一年の集大成であると同時に、今度は来年に向けての新たな出発点として、ひとつ、これから、皆心一つに合わしてつとめたい、かように思いますので、どうぞ、宜しくお願いいたします。

《以上要約》

# ウワー!! おやさま〜!!

二宮勝己先生　記念講演

皆様方、本日は、笠岡大教会の百十周年創立記念祭の一年前、決起の集いを開催なされまして、本当におめでとうございます。ここから、お顔を見せて頂いておりますと、何か、目が輝いてますね。何か、こう生き生きしたお顔に見ることができます。大変嬉しいです。今日のような、こんなお顔で毎日暮らして頂いたら、私の話はもう終わりです。

こんないい顔されてるのに、帰られたら、風船が萎むようにシューッと、こう、萎むわけですねぇ。何故でしょうねぇ。どうぞ、今の心、その顔、これで、後一年ですね、毎日、通って頂いたら、もういいと思いますよ。上出来だと思います。何か生き生きされてますね。中に、ちょっと半分生き生きの人もいますけどね。

どうぞ、今日はおやさまが私を遣って皆様方にこれだけはお取り次ぎするようにとそう仰って頂いた分を四十五分間で、ギュッと、こう縮めて、ウワッと言って私は帰りますから、アッというたら、もう居りませんから、そのつもりで、聞き逃しのないようお聞きください。お願いいたします。

（柏手）

親神様の仰せくださいますのには、「私が造った人間――人間とは貴方ですよ。そこに座っている貴方です。――私が造った人間が、『お父さん、お母さん、嬉しいな。楽しいな。』と暮らして欲しいねで。」と仰っておられるのであります。これを、神様は「かしもの・かりもの」と仰っておられます。

「貴方」とは、目でも耳でも手でもないのですね。「貴方」とは、心です。魂ですね。その魂に着せた着物ですね――これ、肉体ですが――神様が九億九万年から、おぢばかんろだいのところでお造りなされて、貴方――魂ですね――その心に着せてくださった。

この神様の一番お喜びくださるのは、あなた、心、その心が育つことを仰っておられるのであります。人間というのは、どうしても目に見える物、見える物ですね、物に楽しみを求めようとしてなりません。もちろん、コップがあるから水も飲めるのでございましょう。コップも大切だけれども、このコップを通して私の心、私が育つ、このへんが非常ーに大切なところでございます。

もっと心、人より落としなされ、落としなされ。低うなり過ぎて困ることなぞありません。低うなったら、皆寄ってきますがな。それだけでよろしいんや。それだけで、にをいがけ・おたすけできますねん。

帰ってやってみなされ。今日は、家へ帰ったら、主人に、「あんた、今まで、偉そうにしてて堪忍やでぇ」って言うてみなはれ、主人は「ほぅか。ほぅかっ。」っちゅうてびっくりするわ、それだけで。嫁さんにも言うてみなはれ、「あんたなぁ、おーやごーけんはろーとってえらそうにしとって堪忍なぁ。ちえちゃん、堪忍なぁ。」っちゅうと、「ホァッ！　どした？」なんて、ねぇ、今日から変わるよ。

心、落とし、低うし。低過ぎて困ることありゃぁせん。どこまでででも低うする。何故？　おやさまと自分とをここへ置いてご覧。おやさまに近づけば近づくほど、己の足らなさが判ってきます。遠退けば遠退くほど、鼻が高うなる。もう、おやさまが側へ寄って来られない。理の働きが消えて

しまう。さづけが効かん。言うた通りにならんということです。難しいない。阿呆になんなはれ、阿呆になんなはれ。一人の人間で何ができますのや。

そしてなぁ、もっともっと、おやさまに頼みなされ。おやさまはななぁ、何処から手伝おか思て、もう、待ってはりますねん。

私は単独布教に出た二十七才の時から今日まで、朝、目が覚めて「ォアッ！　おやさまぁ～。」そっから始まる。何か困ったら、「おやさまぁ～。おやさまぁー。おやさまぁ。」もう、そればっかりで五十年お連れ頂きました。こんなに結構にお連れ頂いたではありませんか。

ご存命の教祖がこっち向いてくだはってる顔が、あんた方には見えませんか。見ないかん。見えにゃいかん。人間のすることは、所詮、人間のすることや。ご存命のおやさまが働いてくださることは、「ウヱ～ッ!?」というようなことを、ちゃんとしてくださいますのや。

どうでしょうか、今日から、おやさまにお願いする気になりましたか。

おやさまはなぁ、人間造る時のぢば・かんろだいで、あそこで、皆さん方を、ですよ、魂、それをお腹へ宿し、三年三月、あのぢば・かんろだいでじ～っと身籠もってくだはった。「きっと素直な、楽しい子供が出来るやろ。人たすける、そんな子が出来るやろ。親喜ばすような子が出来るやろ。」千日の間、じっと祈りを込めてくだされたおやさまの心、解りますか。解りますよね。解りますよね！　解らなきゃぁ、あんたは天理教のよふぼくじゃぁないよ。解ろうよ！

今ここに座っている何人(なにびと)であっても、実のお腹へ入れてくれた母・母さん・おやさま。「おやさま‼」とお願いしたら、もうウズウズして、「何処へ手伝うたろぉか。どうしたろぉか」と、思てなさる。呼んでくれた「よっしゃぁ～」、必ず働いてくださる。

この道におやさまがおいでやなかったら、私は五十年今日まで歩いて来れなかったですよ。明けても暮れても、「おやさまー。おやさまっ。おやさま。」どうか、このこと、解ってください。

親神様・教祖には心がある。あなた方が、今、親神様、実の親の方を向いているなら、「よぅ、顔ぉ見してくれたなぁ。ぅぁー、あんたも来てくれたんか。忙しかったのになぁ。ぁーそうか。」どんなに喜んでおられるか、それが解りますぅ？それを解るのは、そんなに難しいことじゃないでしょう？　解ってくだされ。どうでも解ってくだされ‼

信仰が良く出来てるから、熱心やから働くんじゃぁない、オロォロ、ウロウロしてる子ほど親は気になって仕方がないのや。そのウロウロしてる子が「母ちゃ～んっ‼」て言うたら、「よっしゃぁっ‼」と、一番先、おやさま出てくださる。一度、この味、占めたらもうやめられへんなぁ。で、親は呼んでくれることが嬉しいのや。

どうか遠い遙か彼方に神様置きなさんな。おやさま置きなさんなや。ほら、貴方の横に、ほらおやさまがお座りくだはってますやないか。おやさまにお願いしてご覧なさい。その通りちゃんと仕上げて「これでええか？」とくださいます。

人間に産まれたことがどれだけ素晴らしいか、今、貴方が、その目が見えることがどんなに素晴らしいことか、歩けることが、ものが食べれることが、聞こえることが……。

もし、明日の朝、目が醒めて、目が開かなくっても何処へも言うて行けませんよ。

あなたが、朝起きて、布団の中で、「ウワー、目が見える。ウワー嬉しい。」それを聞かれた、お造りになった親神様、「こぉの子、こんなに儂の造った眼、喜んでんねで、この子。へぇ、儂も嬉しいなぁ。ワクワクしてきた。」それが信仰の基本です。

歩けることに、「ウワー、神様のお陰。造ってくださった身体、貸してもろてワー嬉しい。ワー歩けるやんか。もの言えるやんか。」もう喜ぶことがいぃっぱいある。私の五十年は、喜びの連続だったのです。

お金など無きゃぁ無うて構わん。お金に拘ってたら、ホントの道なぞ、通れやせん。どうぞ、喜んでください。

そして、「この世界、凄ぉい。凄ぉい世界。花

が咲く、鳥が鳴く、凄い。」朝でもねぇ、《チュン、チュチュチュチュ、チュッ、チュン》その小鳥の声を聞いて、「親神様、二宮勝己、起こすのに、小鳥の囀りで起こしはんねで。もぅ、ホンマに、もぅたまらんわ。」涙が滲む。嬉しぅて涙が滲む。夜寝る時なぞ、「《コロコロコロコロ、スゥィチィ〜ン》さぁ、勝己、寝るやで、鈴虫のこの声で寝るやでぇ。」それが解る？　もぅ涙が出る、胸が拡がる。田んぼ歩く、一輪のタンポポの花見ては、「二宮勝巳のために、花まで尽くして楽しましてくれはんねん。親神様。ありがとう。」もぉ、涙が出る。こっち向いても、あっち向いても、「ウワー。ウワー。ウワー。ウワー。」夢の中でも「ウウォ〜!!」それがホントの陽気ぐらしやっ!!

物なぞ求めたらならん。地位や立場や名誉が何の価値がありますか。そんなもの、何の価値もない。

心や。心や。心や。それをおやさまはずーぅっと仰る。心とは貴方や。心通り守護をしてやろう。

この世終わるときは、何にも持って行かれやせん。藁しべ一つも持って行かれやせん。持って行けるのは、貴方が魂を育てた綺麗に磨いた魂、徳を付けた魂、それこそ、穏やかな楽しい魂、これだけは次の世に持って行ける。

産まれたときここへんやった魂を、様々ないろんな事を通して、百十五年掛かって育てていく。そして、肉体はこの世に焼くなり埋めるなりして、魂がここまで育ったら、この魂は、今度産まれたとき、ここから始まります。

人をたすけるということ、これはなぁ、ボランテアだからする、嘘です。天理教信仰してる、誰々信仰してるからする、嘘。人間はこの世に産まれたら人をたすけるということはせなならん、人間のつとめです。

世界中の人間が、人間として産まれたら、人をたすける、当たり前のことです。立派なことでも、尊いことでもありません。

貴方が、この人を何とかしてあげたいと思うて、足っても足らいでも行ったり来たりしながらやら、この子この子と思うて、人様をたすけたい思てるときの貴方の姿は光が出てる、輝いてる。

よしんば、その人がたすからなくても、何とかしたい、何とかしたい、だから、おやさまの一番喜ばれるのは、貴方が生き生きと輝いて生きる姿は、親神様の最高の喜びです。だから、「たすけで生きるねでぇ。」と仰っておられます。

さぁ、そのたすけの仕方、いろいろある。

けれどなぁ、人間は、悲しいこと、苦しいこと、ポンと起こったら波紋みたいになぁ、ワァッ、ウォッ、ウォッ、ウォッ、ウォッ、ワァッと拡がる。最後は首括って死による。

その時、聞いてやんなされ。聞くだけでええ、聞くだけで。「あぁ、そうか。そやったんか、へぇ〜。ホォ〜ン。フゥ〜ン。ホォ〜ン。」これだけでええ。私は一時間ぐらい黙って聞きますよ。それがおたすけや。

聞くだけ聞いてやんなされ。聞き上手は子育て上手や、おたすけ上手や。神様は、耳は二つ、口は一つ、言うことは一つでええねで、聞くのは二倍聞く暮らし方すんねでと付けてくだはってますやないか。聞き上手にならなあかん。

陽気ぐらし講座のやり方にもいろいろあります。教会でやらない。公民館でやらない。貴方が自分の家でやる。

近所の人、五人でも十人でも「来てよぉ〜。」言うて集める。来てくれへん。来るもんですか。お金なら銀行から借りてきておけるけど、人だけは、行く言うといて来やへんのやから。人の心動かすことがどんだけ難しいから。

だから、その時に、貴方は、「おやさま、何とか頼む。」そいでまた、「皆さん、おはようございます。おはようございます。今度、五日にありますねん。来てください。」「親神様・おやさまお願いします」、御本部へ帰らしてもらう、「どうぞ、陽気ぐらし講座が、三人でも五人でも来てくだはるように。」と必死になって、三月四月苦しむ、切ない思いする。

私そこへ行きました。「今日は何人ぐらい来そうなの？」っちゅうたら、「あっ、あの、まぁ、五人は来てくだはるかと思いますねぇけど……」言うさかい、「それで、ええがな！　五人来てく

だはったら宝や。人は宝やで。一人の人、粗末にしてはならんで。どんな具合悪い人でも粗末にしたら、あんたが粗末にされる、思われる。五人来たら、五人宝や。それで、結構や。」

開いたら、二十人も来はってんがな。ほんな、その開いたそのよふぼくの一人の人が、私がお話ししてる間中……、ほんで終わってから「あんた、何しよったん、あれ？　ホンマに、話も聞かんと……。」言うたら、「いやぁ、私みたいな者、おやさまが働いてくだはって、二十人も私の家へ寄せてくだはって、もぅ、嬉しゅぅて嬉しゅぅて、話聞くどころか、もぅ、嬉しいですいうて泣いとんねん。」

それがホンマの陽気ぐらし講座です。

来てもらいたい、何とかしてこの人この人と思うて、苦しんで、悩んで、そいで「おやさま～。おやさまー。」必ず御守護いただける。その時の喜びは、「やったでえ!!　べェィ・ビィイ!!」信仰者としての最高の喜びを下さる。

産まれてからこの世終わるまでにせなければならん仕事、えぇー顔になることや。一度会うたら、「あの人にもう一度会いたいなぁ。」っと言ってもらえる顔になるのや。

にをいがけも出来るでぇ、寄ってくるでぇ、おたすけも出来るでぇ。今度産生まれ更わってきたら、えぇー着物借りることが出来るで。

私なんかっ、成長盛りに、米は喰わしてくれへん、貧乏で、おたすけばっかり行くさかい、芋も喰わしてくれへん、蔓ばっかり喰わされて、あんな横に這うもんばっかり喰うたさかい背伸べへんねや。日々の中で、人を立て、人を勇め、人を伸ばして暮らしてます。

人間は、この世だけが一生じゃない。次の世に夢がある。今世出来なかったことを、必ず、神様は、次の世でやろうと、きちーっと準備をしてくだはってる。

楽しい道や。結構な道や。輝くような道が、この天理教や!!

終わります。ありがとうございました。（柏手）

《以上抜粋要約。文責：編集部》

# 決起の集い 参加者アンケート

◎大教会長様のご挨拶を聞いて

・創立百十周年記念祭百十年も元一日があって迎えるもので歩いて歩いて布教活動の推進につとめること、大切な角目だったと思います。又、おさづけの取次、百万軒にをいがけ、陽気ぐらし講座開催、一万人のおぢばがえりと御発表下さいました。一つの目標をお打ち出し下さいましたことは、今後の歩み方に張り合いが出ました。

・理の世界と聞かせてもらいます。私共の様な末端の教会では、なかなか、大教会長様の生の声で思いを聞かせてもらうことは少ないので、今日の佳き日に声を聞かせて頂き、大教会長様の口から出る百万軒パンフレット配りの言葉、繰り返し繰り返し出る百万軒のこの言葉に大教会長様の心の内を読み取らして頂いた思いでした。

◎記念講演を聞いて

・解り易いお話でした。言葉使いに無駄がない。目が見える、歩ける、信仰者としての心の通り方の原点を忘れている人の多い中に忘れてはならない、朝から一日の通り方をお話下さり、一つひとつ確かめてお話し下さいました。

・布教一筋で通ってこられた二宮先生の信念・勢いを体で感じることが出来ました。

・今さらながら、私達の心の成人とは何かを知らし認識させられた思いがします。「私はまだまだ至りません。」と言うことを言葉に出すのは誰しも簡単に出しますが、それを自覚するのを忘れがちだと思いました。だから私はこうするという目標を持たなければ前進はないと思いました。又、教祖にお願いすればいつでも待っていて下さり、すぐに助けて下さる、と言われましたが、人間はお願いばかりするのは欲だと今まで考えていました。ま

ず自分の心定めができてからでないとそのようなお願いはしてはいけないと思っていました。

・「おやさま」を身近に、と話された。「おや」が「子」を育てる事。今は「おや」が「子」に求めすぎているのではないか。「心」に「心」からのお話を聞いたように思う。

◎総立ちてをどりまなびについて

・一手一つに心が集まり、決起の集いに相応しい勇んだ総立ちてをどりまなびでした。初めてのことですが、百万軒達成全教会陽気ぐらし講座開催が完遂されたよろこびと並々ならぬ一同の努力が声に表れていたようです。

◎昼食の内容・形態について

・始め、模擬店と聞いて（私がうっかり先走り）信者さんに発表しましたが弁当だと聞いてびっくりしました。でも、内容等は別に云うことはありません。費用の点もありますので親心を美味しく頂きました。ひとつ、数を読むことが大変だと思いますが、余れば無駄が大きい、今後は慎重に数を把握することが大切。

・弁当にお茶まで添えてもらい、これはこれはと思いましたが、これは現金が大きいだろうなという思いで頂きました。末端の教会なら出来る事かなという思いと、お茶わかしのひのきしん、弁当作りのひのきしんはしなくても良いけれども、やはり何事もひのきしんは大変な事かなという思いでした。

・弁当は、参加者全員が行事に参加できてすっきりしていて良かったと思います。模擬店の場合は、昼食の準備等でおつとめに参拝できない、大教会長様の挨拶も記念講演も聞けないという人が多くいます。このようなことのないように、十分検討して頂きたいと思います。

・あれだけの参拝者を受け入れるのは大変だと思います。五月の婦人会の時は沢山テントが出てとても賑やかだったですが、準備、又、後片付け等に大勢のひのきしんの方が必要ですし、又その人達はお話も聞けませんし、何もできません。今回の対応はとても良かったと思います。おいしくお弁当をみんなで頂きました。

・美味しく戴きました。時代（？）かなと思います。

◎アトラクションの内容（天中軒鵬さんの歌謡ショー）・形態について

・歌もさることを乍ら、途中にお話しされることがお道でなくては言えない涙の出るようなお話、感動しました。

・私共の地区も陽気ぐらし講座には天中軒さんでした。私も時間に合わせて近所の人を誘って四回四会場に天中軒さんの歌を講演を聞きに行きました。大教会では五回目になりました。この人は何か話のたねを持っておられる人だろうなと思って歌ほど聞かせてもらっていましたが、このたびは歌より一言二言のお話が耳にこびりついていてやはり大教会でのアトラクションにはこれだなと快き思いで聞かせてもらいました。

・浪曲・演歌は、年輩の人達は、みんな喜んで下さって良かったです。今回は若い人が殆どいなかったのでよいが、休日等に行事をする場合は若い人達のことを考慮する必要があると思います。

・時間がなかったので見ることができませんで

◎今日までの活動を思い起こし、心に残っていること。また今日

・今日というより一年先の真柱様のお入り込みをどうして理作りをさせて頂くかに心が休まらず、一人でも大勢の参拝者をそして一人でも多くの人が決起して欲しいと御案内させて頂きました。初めての陽気ぐらし講座も二年続けての百万軒も何でもどうでもとやらなければ出来ない完遂を目指すことは余程の努力がいります。しかしやれば出来る目標は大きい程、今日を迎えて充実感といいますか、うれしい。お道は、して喜べる素晴らしい、させて頂いて有難い。

・大きな望みはあっても、大きな夢はあっても、小さな事、どんな小さな事でも、日々続けさせて頂く事、私は、「朝起き」、「正直」、「働き」、その三つの苗木を終生育てたいと思っております。今日の一日はその中の「一節」と受け止めております。

◎来年への抱負

・大教会長様の御発表片時も心から忘れないよう、教会一手一つにつとめさせて頂きたい。又、すべてに後に後にならないよう早く御安心頂けるよう御発表の角目を少しでも早く実行に移させて頂くよう努力いたしたい。又大切なことは今迄に御示し頂きました諭達あるいは時々旬々の活動方針はそれがすんだからいいというのではなく永遠につとめとして続行することが大切だと常にその気持ちを持続させたい

・今回のこの大切な「一節」を生かして、おやさまのひながたをめどう似、「人がめどか、神がめどか、神さんめどやで」。成ってくる理が天の理、心すまして天のたよりを読ませて頂きたいと思います。それが明日への来年への抱負です。

◎その他

・平素の親心に対して心より御礼申し上げます。

・最後の佐藤先生の挨拶といいますか、決意表明といいますか、すばらしいお話でありました。是非「かさおか」へ掲載して下さい。実動しているよふぼくが確実に増えていると思います。最近の笠岡大教会には見られなかったことです。教会長講習会にしても、お話を聞いて練り合いというだけでは……。てをどりまなびをして外ににをいがけに出るというふうに体を動かす方が良いと思います。

・「天理教の者です。」と言い乍ら、世間から見たとき、あきれられたり、非協力的であったりしたらどうでしょう。立派なにをいがけになるでしょうか。先ず家庭の中からにをいがけ！ 子供をよふぼくまでしっかり育て上げることも決して楽なことではないと思います。今、世の中は家庭が崩れかけています。しっかりと心して、日々を過ごすことが大切だと思います。

**（アンケートにご協力ありがとうございました。紙面の都合上、一部を掲載いたしました。）**

# 秋祭り

十一月十九日、笠岡市・笠岡商工会議所・笠岡市教育委員会などの共催で、「笠岡秋祭り総集編」と題する市民挙げての行事がありました。

当日九時から午後三時半頃までの一日の人出は、約三万人であったと発表されました。本町通りはじめ各商店街が工夫を凝らして大売出しを行い、百店に近い露店が駅前通りに出店し、又、他府県から二十種類の大道芸人が力演して歩きました。

笠岡駅から北へ向うメインストリートの終点、笠岡市役所玄関前に、三十畳敷の特設ステージが設けられ、朝九時のオープニングは、集まった千人の市民の手より放たれる風船の舞う中で行われました。

午後三時半、もち投げのフィナーレまで、次々と各種団体が出演して、日頃夫々に磨いた芸を披露しました。

盆踊り、フォークダンス、太極拳、保育園児の鼓笛演奏……など。

大教会としても雅鶯会の雅楽演奏が、こうした市民の行事に初めて出演し、大変好評でありました。

大教会の祭典雅楽奉仕人の中から、箏（琴）・鞨鼓・太鼓・鉦鼓・笙・篳篥・龍笛のメンバー十四人が、午後二時半頃、ステージの演芸の最後を締めくくる様に見事な管絃の演奏を人々に披露しました。

市民の多くは、これほど本格的な雅楽の演奏の姿を見ることは初めてらしく、準備中に、女性司会者が語る雅楽並びに雅鶯会の説明紹介に、一様に耳を傾け、又、その前に一人一人に手渡されたカラー刷りの紹介説明リーフレットを読みながら、荘重に朗々と流れる古典音楽の調べに、うっとり

と聞き入り、感嘆の表情で音律の中に浸っている雰囲気が舞台の上で演奏している者にもありありと感じられ、初めての出演は大成功であったと、関係者一同、自画自賛し、数日を経た今も、その満足感がメンバーの心にたっぷり残っております。

演目は、平調音取と越天楽・陪臚の二曲で、割り当てられた持時間十五分きっちりに納めました。

舞台から降りた私たちのもとに、市の総務部長が、走って来られ、「驚きました。貴方がたの一糸みだれぬ素晴しい技術と味わい深い音色に驚嘆し、適当な讃辞も思い当たりません。ステージ周辺に居た係員である市の職員たちが『ぜひ、雅鶯会を笠岡文化連盟にはいって頂き、笠岡の文化活動に助力して貰いたい』と言っております。」と話されました。

このたびは、天理教を表に出さず、芸能の一団体として、出演しましたが、事務所の所在を明らかにしておきましたので、次第に、天理教団体ということが市民に伝わるものと思います。大教会創立百十周年記念祭決起のつどいの二日前であったことを思い、今後、我々は雅楽を通じた土地処へのにをいがけにも取り組んでいきたいと切に願っております。

# 修養科修了生の声

## 修養科で出会った笑顔

上下分教会　押尾知恵

笑顔はとてもステキです。私は改めてその大切さを実感しました。

私は修養科でたくさんの笑顔と出会い、たくさんのエネルギーを修養科の仲間達からもらって三ヵ月間過ごさせて頂きました。

「おはようございますっ!!」から始まり、「また明日ね。」で終る修養科での笑顔達には、明らかに、今まで私が出会って来た笑顔とは違って見えました。それは、一人一人、心から感謝の気持ちいっぱいであるということがにじみ出ている様な笑顔だからだと思います。みな、それぞれに事情や身上をもちながらも、親神様から生かされているということに喜び、感謝の気持ちでいっぱいなのです。

そんな素晴らしい笑顔から出てくるものは、人を助ける心とエネルギーでした。そのエネルギーこそ、さらに周りの人々を幸せにしてくれる源なのです。私はこのことを実感した時、陽気ぐらしとはこういうことなんだと、肌で感じ、自分自身の目で確かめられた気がしました。

日々、たくさんの笑顔を与えてくださった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

私はこれからも笑顔をたやさず、今度は私からどんどんエネルギーを放出させていきたいと思います。この三ヵ月間で自ら体験したことを今度は、私の周囲の人々に感じとっていただけたらと思いました。そして、陽気ぐらしの素晴らしさを少しでも多くの人達に気付いてもらい、どんどん笑顔を広げていけるよう務めさせて頂きたいと思います。

## 友情の証

海松ヶ岡分教会　渡邊理恵

私は、三ヶ月間毎日続けた事がありました。それは、傘を持って行くという事です。晴れの日でも、もちろん雨の日でも……。それは、台湾からおぢばへ帰って来た、同期で相棒でもある林(リン)さんが、『雨が降ってもいい、晴れたって構わない、もし、犬が来たって大丈夫ラシイね。』と言った、その一言から始まったものでした。

私は、特に何の身上も事情もなく、修養科に入学しました。お道の教えを、もっとくわしく知りたい。てをどりや女鳴物を、完全に覚えたい。と思う気持ちの反面には、『どうして私が、今修養科に？』という気持ちがありました。そんな気持ちの私が出会ったものは、人は、私の高く伸びてしまった鼻を、チョキンと切ってくれ、ひのきし

んの素晴らしさを身をもって体験させてもらい、とっても温かい笑顔をくれました。それは、何だか産まれ変わった様な気分になるものでした。

『あーこれかぁ』

私は、修養科って、心のほこりを取り払い、心の使い方を学ぶ所なんだ!!と気付く事が、（三ヶ月目にして）できました。それは、同じクラスの皆をはじめ、共にひのきしんをした名前も知らないあの人も、同じ詰所の二人のお爺ちゃんと六人のギャルも、父さんの様に優しかった先生方も、もちろん親神様・教祖も私のまわりに居てくれたすべての人が、教えてくれたものです。

修養科を終えた今、傘と心は同じということに気づきました。それは、私はお道を信仰している心を持つことができたからです。自分の心や、まわりの心に、雨が降った時は、そっと傘をさしのべ、その心が晴れた時には、共に傘をたたみ、何か障害が現れた時は、親神様のプレゼントだと思って、乗り超える努力を惜しまずする。どんな時でも、お道の心をしっかりと持って、その心を使う努力を、言葉と働きで表現することの大切さを教えてもらいました。

『傘と心は同じ。』林（リン）さん、台湾と日本遠く離れているけれど、私達『心の傘』を大切に大切に持ち続けるからね。最後に、

『実行しなくちゃ!!何も始まらん!!』

頑張り続けます。有難うございました。

## Leader's Mini-Essay 心の通ひ路

錦備分教会　室　悦子

数年前、他教会の信者さんであるFさんと知り合いました。

Fさんは、化粧もできないほどのアトピーを御守護いただいて入信され、二人の子供のアトピーと喘息も何とか御守護いただきたいと、毎日にをいがけに出ておられました。

ある時、Fさんは下痢をしてしまい、「腸は目上に対して運ぶ心が間違っている」と聞くから、主人に対してどこか悪かったかとあれこれ考えましたが思いあたる節がないので、理の親のMさんに電話をすると、「私の言いつけで守ってないことがあるでしょう」と言われました。

Fさんは、もしかしたらと思い「にをいがけから帰った時、麦茶を切らしていたので、仕方がない、牛乳しかないから飲もうと思って飲んでしまいました。」と言いました。

Mさんは「そうや、『あんたは徳切れしてるから、ジュースとかお金のかかるもの飲まん様にしなさい』言うたやろ。お茶がなかったら牛乳ぐらい飲んでもええやろという、自分を守る為の言い訳と、目上の一言を受け取る心が軽すぎるのがあかん。たとえば主人が、たばこを取ってくれ言うたら、普通の奥さんやったら、ライターと灰皿はあるかしらと思って気にするで。そやけど、あんたは、悪気はないけど気を使うということを知らんから、たばこしか持って行かへんやろ。そしたら、主人はライター取ってくれ、灰皿取ってくれと一から十まで言わなあかんようなるし、気が付かん奴やなあとあんたのことつい悪く思うやろ。あんたはあんたで主人のこと、いちいちうるさいなあ、私は子供のこともせなあかんのに、いっぺんに言うか、それぐらいの事自分でしたらええのにとぐじぐじ思うやろ。それがアトピーの根性やで。私がジュースを飲むのをひかえる様に言うたら、コーラも牛乳もコーヒーもやめとこ、お茶がなかったら水でがまんしとこと、頭、働かして通らんかったら、子供が助からへんで。」と言われました。

Fさんは「そこまで理の親の一言は大切なものなのか。私がそこまでせんと子供を人並に幸せにすることが出来ないのか。私はそこまで徳がないのか。そうなのか!!」と納得しました。すると不思議なことに、それからピタッと下痢が止まったそうです。

私はその話を聞いて、初代というものは、ここまで自分自身を切り詰めて、孫子の為に通っているのか、知らなかった。道の初代が血のにじむ様な思いをして積んでくれた徳を、私は、あたり前の様に思い、感謝するどころか、もっとおいしいものが食べたい、もっといいもの着ていいくらし

をしたいなどと好き勝手に暮らしてきた。はずかしかったなあと大いに反省しました。

Fさんは、引越されて、お会いすることもありませんが、あの頃Fさんから教えてもらった数々のことをもう一度思い出し、大教会創立百十周年に向けて、頑張りたいと思います。

## 「陽気ぐらし講座」を終えて

亀田山分教会長　高　橋　徳　行

「陽気ぐらしの天理教と、世間様に唱えていながら、なんだか天理教の教会は、暗いところが多いような気がする。」ある先生との、茶飲み話での一言。成程、思わずうなずいてしまう。

今年は、全教会にて、陽気ぐらし講座の開催という、一つの目標を掲げて頂いた。私共の教会にても、近場々々の会場と相談しつつ何とか開催させて頂いたのであるが、当初の気持ちと、やり終えての気持ちとの間には、大きな変化があった。始めは、大教会から「やれ」と言われるのだから、何はともあれ、とりあえず、やった、という程度のものでもさせてもらおう、と思っていたのだが、いざ実際に計画を立てて、開催し終わってみると、こんな有意義な内容ならば、会場の段取りから、人集めの上の声掛けの仕方など、もっと苦心して取り掛かっておけば、との反省の思いが、次から次へと思い浮かんできたのである。それと同時に、届かんながらも、つとめさせてもらって良かった、来年以降も、是非陽気ぐらし講座、開催させて頂き、これをひとつの契機として、にをいがけの一助と成し、ひいては、教会の内容充実に繋げていけたら、とも実感させて頂いた。

これ又、とある先生の一言。「案じ心を遣わんよう、と聞かされもし、人にも言うていながら、天理教の者程、案じ心が強いのでは。」と。お道に限らず、どの世界に於いても、それぞれに、様々な立場の方から、目標なり、課題なりを与えられる。それらは、今ある現状を打破し、次なる塚へと進むべき道標に違いないのである。しかし、それがなかなか理解出来ず、案じ心が先に立ち、いらざる考えばかり思い浮かべて、悶悶として日々を過ごす。結局のところ、今の自分から、一歩も踏み出せないまま。情けない現実である。

何か、事を計画し、それを実行する日が来た。結果は自らが理想としていたものとは、大きく掛け離れたものになってしまった。それでも良いのである。大切なのは、それを計画したことであり、それに向けて、如何に努力したか、動いたか、心を遣ったか、ということである。この道は、末代続く道であればこそ、理想とする結果など、慌てゝ求める必要などない。

笠岡大教会創立百十周年まで、あと一年。お互い様に成人の旬。焦らず、腐らず、コツコツと、勇み心を全面に押し出して、つとめ励ませて頂きましょう。

## ふたことみこと

20世紀も、余すところ、後十日だ。

「20世紀最後の『かさおか』」に相応しい誌面にしたかったが、「時間の都合」で、こうなった。

「こうなった」というのは、写真もなければ、挿入カットもない、講話等の要約も荒削り……ということだ。たぶん、誤字脱字も多いことだろう。

正に、我が人生の「20世紀の総決算」だ!! 時間に追われ、何をしてきたのか見当がつかない部分が多々ある。

しかし、「道のつとめ」には、時間を仕切ってつとめるべきことが多い。時には、結果よりも、時を仕切ることの方が大切だと感じることが多い。

百十周年を目指して、三年千日仕切ってつとめている。一年ごとに、それぞれの心を定め、誰に言うともなく、誰に見られているともなく、只管、神一条に心の成人の歩みを期して、それぞれの区切るべき年末に向けて、猛進している。

「反省」という。振り返って、「今年、一年、何をしてきたんだろう?」と考えてみて、芳しい思案はつかない――ことが多い。しかし、誰に言われなくとも、誰に見られなくとも、神に捧げた一年があるではないか。

そこに、何の結果が見えよう! 何のご褒美があろう!

誰にも解らない悩み・苦しみ。誰も知らない心の歩み。

人に笑われ誹られて、珍し救けをするほどに。

人が目標か、神が目標か。神さん目標やで。

人が何事言おうとも、神が見ている気を鎮め。

独りよがりで結構。誰が何と言おうと、後一年、つとめ切ってやるんだ!! あと三百三十五日。毎日が一日生涯だ!! そんな自分でありたい。

しやんして心さためてついてこい
するハたのもしみちがあるぞや

# 布教の家　入寮要項（立教164年度）

**期　　間**　「入寮研修会」（３月29日）から、翌年３月27日「卒寮の集い」まで

**資　　格**　1.所属教会長ならびに直属教会長から推薦された、天理教教人（単身入寮のこと）

2.布教の家と同教区の方も入寮できる（年齢は問いません）。ただし、１ヵ所の布教の家には、原則として１系統から１人とする

**携 行 品**　寝具、おつとめ衣、ハッピの帯（男子のみ）、衣類、洗面具、履物、布教用鞄傘、筆記具、裁縫具、石鹸、洗濯干し、ほか各自が日常使っているもの。単独布教師として、身のまわりの生活用品も質素・最小限を心がけること（寝具など日用品は入寮許可後、３月29日までに到着するよう発送すること）

**諸 注 意**　1.生活費は、月6,000円とし、自炊する

月額6,000円は毎月26日までに、保護者が翌月分（５月分より）を布教一課に納入すること（布教一課より各教区に渡す）

2.入寮生は１年間、にをいがけ・おたすけに専念し、布教地を離れぬこと。帰参者、別席者、修養科生を連れてのおぢば帰り、上級参拝以外は原則として認めない

3.中途入寮は認めない

**願　　書**　1.**入 寮 願**　１通（所定用紙による）

2.**経 歴 書**　１通（所定用紙による）

3.**小 論 文**　テーマ「入寮の動機及び心構えについて」（所定原稿用紙４～５枚）

4.**写真２枚**　最近半年以内で上半身、免許証用大

※願書については、布教一課へ取りにお越しください（11月25日より）

**受　　付**　**１月25日午前９時より２月25日まで。布教一課までご持参ください**

**入寮者決定**　２月26日に面接の上決定し、３月15日までに所属教会長および本人へ通知します（面接は保護者同伴）

（希望の寮が定員を超えるときは先着順とする）

**入寮研修会**　入寮許可者に対し、３月29・30日に本部において研修会を開催し、終了後そのまま現地へ出発する

（片道の旅費、４月分の生活費を持参のこと）

◇入寮希望についての詳細は下記へお問い合わせください。

〒632-8501 天理市三島町２７１　**天理教布教部　布教一課**